

酒田市総合計画審議会 第4回ひとづくり・まちづくり部会 議事要旨

1. 日時

平成29年8月30日(水) 10:00~12:00

2. 場所

酒田市役所 703会議室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 ひとづくり・まちづくり部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田市自治会連合会連絡協議会会長	阿部 建治	部会長
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤 善一	副部会長
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤 吉男	
酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治	
酒田飽海PTA連合会母親委員会会長	佐野 亜古	
特定非営利活動法人元気王国理事長	佐藤 香奈子	
東北公益文科大学学長	吉村 昇	

【事務局】

総務部長、市政推進調整監、教育部長、企画振興部長、市民部長、商工観光部長、建設部長、政策推進課長

4. 議事内容

【事務局より会議の成立について報告】

- ・本日の出席委員は7人であり委員定数8人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

【事務局より説明】

(1) 次期酒田市総合計画の策定について・スケジュール

- ・資料1に沿って事務局より説明

(2) 基本計画の第二次原案素案について

- ・資料2～3に沿って事務局より説明

【委員からの質疑・意見等概要】

- （委員）酒田市の財政状況が大変になっている要因はどう捉えるか。
⇒合併後、財政力指数、経常収支比率、市債残高が悪化した。区域が広がり、箱物が増えたこともある。また特殊要因として市立病院の継承分というのものもある。
- （委員）市職員の数や人件費は類似団体と比較してどうか。
⇒合併以降、職員を約200人減らして850人程度である。近年は横ばい状態。人件費の比率は類似団体と比較して若干よいくらい。
- （委員）農業後継者少ない。ヘリオペレーターは60代後半。国内需要と供給だけでなく、海外との交流や研修生の呼び込みなど、海外に向けた取り組みを先んじて強めに記載すべき。
⇒担い手に関しては、女性や若者を増やすということについて記載している。海外からの労働力、担い手確保という点についてもご意見としてうかがい、検討する。
- （委員）現在、市で芸術文化振興計画を策定中である。内容決まってくれば総合計画にも掲載されるか。芸術文化の現在の内容は凝縮されすぎている。もっと思いを載せられないか。
⇒芸術文化振興計画と連携しながら策定作業を進行していく。ここに限らずすべての分野が凝縮せざるを得ず、記載が薄いところもあるが、ご了承願いたい。
- （委員）日本遺産関係など、今やっていることをどう活かすのか、5年後10年後に向けて夢を描くと楽しいのではないか。またコワーキングスペースは民間で立ち上げようという動きもあり、事実が見えている部分はそういった流れがある、ということを書いてもいいのでは。
⇒施策が目指すまちの姿につながっていくように取り組む。コワーキングスペースをはじめ、現在動きがあるものについては時代の変化についていけるかどうかという問題があるが、基本計画は5年で見直していく。時代に合っていないものについてはその都度修正していきたい。
- （委員）人口減少については商売をやっているものにとっても重要な問題。人口減少を止めるのか、入ってくる人を増やすのか。いろいろ記載あるが、海外からの受け入れなども含めて見えているところがあるなら、方策として書いてもいいのでは。
⇒2060年に4万7千人という推計があるが、これが7万5千人となるように、またこの計画の最終年には9万5千人という目標を達成するために、自然減、社会減を減らす。そのための基本構想である。

○（委員）公益大のコワーキングスペースについては目的をはっきりさせたほうがよいと考える。今年度から開設された酒田市の寄附講座とあわせ、IT関係人材の育成の面で活用していきたい。「IT集積都市 酒田」というキャッチフレーズを考えているので、これを書いてもらえるとありがたい。インキュベーション機能をどう持たせていくかが課題。

○（委員）政策1-3にある「標準学力検査」とは？ 文科省でやる全国一斉学力検査（＝学テ）とは違うものか。説明を入れたほうがよい。

⇒標準学力検査は小学4年から中学3年までを対象にした民間の検査で、多くの学校で採用している。一人ひとりの学力の推移を見ることができるもので、酒田市でも行っている。いわゆる「学テ」は小学6年と中学3年を対象にして文科省で実施するもので、今回記載した標準学力検査とは別。わかりやすいように説明を入れたい。

○（委員）教育環境の整備に関する評価指標が「トイレの改修済率」だが、それだけでいいのか。

⇒老朽化に対して計画的に改修を実施していきたいという市としての意向があるため、指標として設定した。

○（委員）秋田県は全国的に学力が高いが、山形は低い。なぜか。

⇒（委員）成績がいいのは人口が少ない地域。指導が行き届くという側面がある。また50代くらいの人を中心に、先生方が頑張っていると思う。

⇒（委員）指導力、教育力向上のために先生方や行政は頑張っているが、学校はあくまで基礎基本を子どもたちに教えるもので、目的は人間教育である。学力検査で点数という形で数字が出ると現場は苦しい。たとえば学級に一人二人授業についていけない子がいると、平均点はぐっと下がる。

⇒（委員）秋田に視察に行ったが、先生方の目つきが違う。本気でやっている。家でも保護者がつきっきりで学習させていた。家と学校、両方が変わらないといけない。

⇒学力向上のための取組は様々ある。指導力向上のため、単元学習の研究でどうやって子どもたちに伝えていくかを勉強している。算数や数学が特に弱いので、学校での研究会もやっている。また授業についていけない子がいるとどうしても全体を引っぱってしまい成績が下がる傾向というのはあるという。ここに記載してるQ-U（アンケート）などを活用して、授業に集中できるような学級運営のための取組みを行っていく。

○（委員）政策1-2の「その他高等教育機関」の記載について、「高等教育機関等」とすれば「その他」は要らない。またクロスカルチャーという考え方で、他県、他市町村から来ている学生は新しく酒田に触れるので、彼らの目線からの酒田への希望や、感じていることを聞くのは大事なことと思うがどうか。

⇒文言については検討調整する。クロスカルチャーの考え方についてもご意見として受け

止める。

○（委員）政策5-1について「460の自治会」とあるが、自分が把握している数と異なる。連合会に入っていない自治体があるということか。

⇒然り。5つある。

○（委員）消防団員数が少ない。団員の手当てなどはどうなっているか。

⇒基本的報酬に加え出動の際の手当てを支給している。団員の確保が困難だが、企業等に理解を求めている。また大学とも連携して機能別消防団を設置。他にも、団員の少ないところには車両を配置し、機動力を下げないようにするなどの取り組みをしている。

○（委員）小学校統合により学校単位でのコミュニティ運営ができなくなった。コミ振を大きくして学校単位にできないか。

⇒政策5-2の右側に「適切なコミュニティ振興会の規模、コミュニティ振興会同士の連携のあり方について、必要に応じて検討」と記載してある。現在の規模だと人口減少等により維持できないところもあるので、必要に応じて統合などについても検討する。コミ振ごとにそれぞれ事情が異なるので、個別に対応していく。

⇒（委員）コミ振に対して行政側からどうしろと言えないというのは把握した。ただ地元から意見が出てくるのを待っているだけではよくない、皆で話し合う場所が必要ではないかと市長には伝えた。子どもの減少に歯止めがかからない今、個人的には学校単位のコミュニティでいいのではないかと考える。市側から適正規模のコミュニティということをもっと強く言えば、地元でも考える機会になって前に進むと思う。地元の動きを待つ姿勢だけでなく、市の考えを示して誘導すべき。

⇒コミュニティにおける子どもの教育は大切。一方で人口減少を考えたとき、高齢者の日常生活の支援という観点も必要。学校中心という考えも大事だが、地域としてまとまることができる単位も考慮しないといけない。学校単位でまとまることができるならよいが、高齢者の生活を考えたとき、もっと小さいムラ単位の方がいいことがあるかもしれない。その部分については行政でどうしろと言えず、地域により様々事情があると考えられる。

⇒（委員）理解できるが消極的な姿勢に見える。高齢者の生活のことは踏まえた上で発言した。そこをリードしていくのが行政だと思うので前向きに検討してほしい。

○（委員）コミュニティの喫緊の課題は福祉に関する部分。総合事業について記載して欲しい。地域包括支援センターはどこが大元になって責任を持っているのか。コミュニティによって温度差がある。

⇒すべてのコミ振が同じ思いならば総合計画の中に書けるが、おっしゃるとおり実際は温度差やそれぞれの事情があるので、コミ振の役割としてはっきり記載するのは難しい。ご意見として受け止める。

- （委員）オリンピックに向けて、スポーツの産業化という側面が出てくることになる。
企業スポーツやスポーツボランティアも含めて、政策3-2（「おもてなし」があふれ、交流でうるおうまち）に記載しても面白いと思うがどうか。
⇒現在の記載はどちらかといえば専門性は薄い。大都市などでは財団等による運営なども見られるので勉強したい。

- （委員）政策1-4スポーツイベントについて、スポレクや市民体育祭などの行政主催のものだけでなく、フットサルなど民間でやっているものもある。そういったものも成果指標「スポーツ行事への参加者数」として把握してはどうか。
⇒コミセン等で実施される民間によるスポーツイベントについても、参加者数に含む予定である。

- （委員）政策1-3トップアスリートになるには「触れる」だけでなく、「強化」という視点が必要であり、記載に盛り込んでどうか。酒田市としてどこに力を入れていくのか、個別の競技名は明記できなくとも、方針は持つておくべき。
⇒記載を工夫し、入れられれば書き入れていきたい。

以上